

ソラマメ

やさいの里営農センター 営農指導員 高宮 秀隆



農作業

テクニカルダイアリー



越冬キュウリ

グリーンプラザ第一集出荷センター 営農指導員 鈴木 広大



写真③ 黄化症状

次作に向けて、生育前半の病害虫対策と出荷後半の選果選別を徹底し、安定した品質を維持しましょう。

この影響を受け、出荷が例年より5日程度遅れました。また生育段階で樹が黄色くなり(写真③)、生育が止まる症状が多発したことで、出荷数量は前年を大きく下回る結果となりました。

令和7年産は生育期間中に降水量が少なく、空気が乾燥した状態が続いたため、例年よりアブラムシが増加しました。これにより、アブラムシによってウイルスが媒介されるソラマメモザイク病が多く見られました。

令和7年産の振り返り



写真④ アブラムシの群生(幼虫)

アブラムシの吸汁によりウイルスが伝搬されるので、アブラムシの発生防止に努めましょう(写真④)。定植時にアドマイヤー1粒剤を処理し、

●対策② アブラムシ防除
アブラムシの吸汁によりウイルスが伝搬されるので、アブラムシの発生防止に努めましょう(写真④)。定植時にアドマイヤー1粒剤を処理し、

●対策① 連作しない
連作を行うと感染リスクが高まるので、土壌消毒を作付け前に行うか、同一圃場の栽培は可能であれば5年以上(最低でも1年)は空けましょう。

モザイク病対策

モザイク病は、アブラムシがウイルスを媒介することで発生する病気です。生育初期(年内)に感染すると成長が阻害されて枯死に至る場合もあります。

●対策① 連作しない

連作を行うと感染リスクが高まるので、土壌消毒を作付け前に行うか、同一圃場の栽培は可能であれば5年以上(最低でも1年)は空けましょう。

●対策② アブラムシ防除

アブラムシの吸汁によりウイルスが伝搬されるので、アブラムシの発生防止に努めましょう(写真④)。定植時にアドマイヤー1粒剤を処理し、

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関する悩みを、JAの総合事業の力で解決！栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

JA山武都市
営農なんでも相談室(本所 営農部内)

☎ 0120-972-860



表② 未成熟ソラマメに登録のある薬剤

対象病害虫	薬剤名	使用量・希釈倍率	使用時期	使用回数
えそモザイク病 一年生雑草	バスアミド微粒剤	30kg/10a	播種21日前または定植45日前まで	1回
アブラムシ類	アドマイヤー1粒剤	3kg/10a	播種時	どちらか1回
		2g/植穴	定植時	
	アディオン乳剤	3000倍	収穫7日前まで	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	収穫7日前まで	3回以内
	スミチオン乳剤	1000~2000倍	収穫3日前まで	3回以内

本来、夏作物であるキュウリにとって、これからの栽培は時期外れの作となります。そのため、最も大切なことは、光合成を最大限に高めることを意識した管理です。

光合成を低下させないためには、晴天日には光合成の最適温度である20~30℃まで早く上げることが重要です。早朝加温によって、光合成を促進させましょう。曇天時には20~25℃で管理し、呼吸消耗を抑えるようにしましょう。

また、湿度も光合成に影響を与えます。気温が高いときは湿度が高いほど光合成が盛んになるので、日中の湿度を下げ過ぎないように注意しましょう。

適正な水分管理も重要です。キュウリは浅い土層に根を増やす性質があるため、水を与えないと一気に樹勢が低下します。一度に多く灌水するのではなく、こまめに少量の灌水を行いましょう。

栽培のポイント

越冬キュウリにおいては、ミナミキイロアザミウマが媒介する「黄化えそ病」(写真①)や、タバココナジラミが媒介する「退緑黄化病」(写真②)など、ウイルス病の被害が増えています。これらの病気に対抗するには、一つの方法だけでなく、総合的な防除が重要です。防除は苗の段階から残渣処理までが重要ですので、次の対策を実践しましょう。

●絶ち切る
前作終了後の密閉処理は必須です。キルパー等を併用し、虫や雑草を絶やしましょう。処理後は植物残渣をハウス外に持ち出し、ハウスの内外の除草を徹底してください。

●入れない
防虫ネット(0.4mm以下推奨)をハウス開口部に展開しましょう。また、ハウス周辺の除草を定期的に行ってください。

●増やさない
育苗期または定植時には、ベリマークSC等を用いた初

ウイルス病対策

その他病害対策

期防除を徹底しましょう。また、系統(RACコード)の異なる薬剤を、7~10日間隔でローテーション散布しましょう(表①参照)。

11月以降は外気温の低下に伴い、温度確保のためにハウス内を閉め切りにすることから、菌核病、うどんこ病、べと病の発生が多くなります。

●菌核病

天窓の開放や日中の暖房機運転によってハウス内の湿度を下げましょう。また、胞子の飛散を防ぐために、被害果は早期に摘み取りましょう。

●うどんこ病

不要な下位葉は摘葉し、風通しを良くしましょう。また、病斑は葉の表裏に発生するため、薬剤散布時には葉の裏にも十分に薬剤がかかるようにしてください。

●べと病

排水を良くして過湿状態を避け、発生初期からの薬剤散布を心掛けましょう。

表① アザミウマとコナジラミに登録のある薬剤

薬剤名	適用害虫名		希釈倍率	使用時期	使用回数	RACコード
	アザミウマ	コナジラミ				
コルト顆粒水和剤		●	4000倍	収穫前日まで	3回以内	9B
アフーム乳剤	●	●	2000倍		2回以内	6
グレーシア乳剤	●	●	2000倍		2回以内	30
トランスフォームフロアブル		●	1000~2000倍		2回以内	4C
コテツフロアブル	●		2000倍		3回以内	13
ディアナSC	●	●	2500倍		2回以内	5
モベントフロアブル	●	●	2000倍		3回以内	23
ヨーバルフロアブル	●	●	2500倍		3回以内	28



写真① 黄化えそ病



写真② 退緑黄化病